



全国曹洞宗青年会

# SOUSEI

2022.11  
Vol.199



特集 **僧侶に求めるリアル**

特集

# 僧侶に

# 求めらるリアル



古くから僧侶や寺院は、人々の生活に身近に寄り添う存在でした。悩みへの寄り添いや教育環境の提供、社会的弱者の保護や医療提供などの社会福祉活動、華道や茶道の文化発信など、多岐にわたり人々の生活の中に根付いてきました。

しかし近年では「葬式仏教」や「葬式坊主」などの俗語も生まれて久しく、世間と寺院関係者のギャップが問題視されてます。寺院のコンサルティング事業も注目され、現代社会に寄り添いながら、本来の僧侶やお寺の役割を再確認し、社会に理解してもらう方法も日々模索が続けられています。

こうした現状に注目し、本特集では一般の方を対象に僧侶や寺院に関するアンケートを実施しました。そして社会の本音が飛び交うネット世界で活動する YouTuber 僧侶の大慈師と、様々な社会活動や心の寄り添いを研究してこられた梅宗寺住職・館盛寛行師にお話を伺いました。

全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）の活動理念「大衆教化の接点を求めて」に鑑みて、改めて現代社会のリアルな声に耳を傾け、今後の寺院運営や社会との接点や関わり方について考えていきます。

## ●アンケート実施内容

実施形式

500人の方（10～20代、30代、40代、50代、60代以上の各100人）にネットアンケートを実施しました。より具体的なご意見を頂戴するために、選択形式の設問ではなく、全て回答者の自由記述でお答えいただきました。不満意見では複数意見を記述した方もおり、実施人数以上の回答数となりました。

設問内容

それぞれ自由記述式の設問とし、下記の3点に対するご意見を頂戴しました。

- ①「お寺やお坊さんに不満を感じたことを教えてください」
- ②「お寺やお坊さんに好感を感じたことを教えてください」
- ③「お寺やお坊さんに望むことはありますか？」

集計方法

自由記述による回答をいただいたため、全ての回答を広報委員会内で確認し、同内容で多数いただいた意見を中心に下記例のように集計しました。また僧侶に接した経験の有無を申告いただき、回答の傾向を比較しました。

※不満意見がそのまま要望と重複している回答が多かったため、設問③の回答は集計から除外しています。

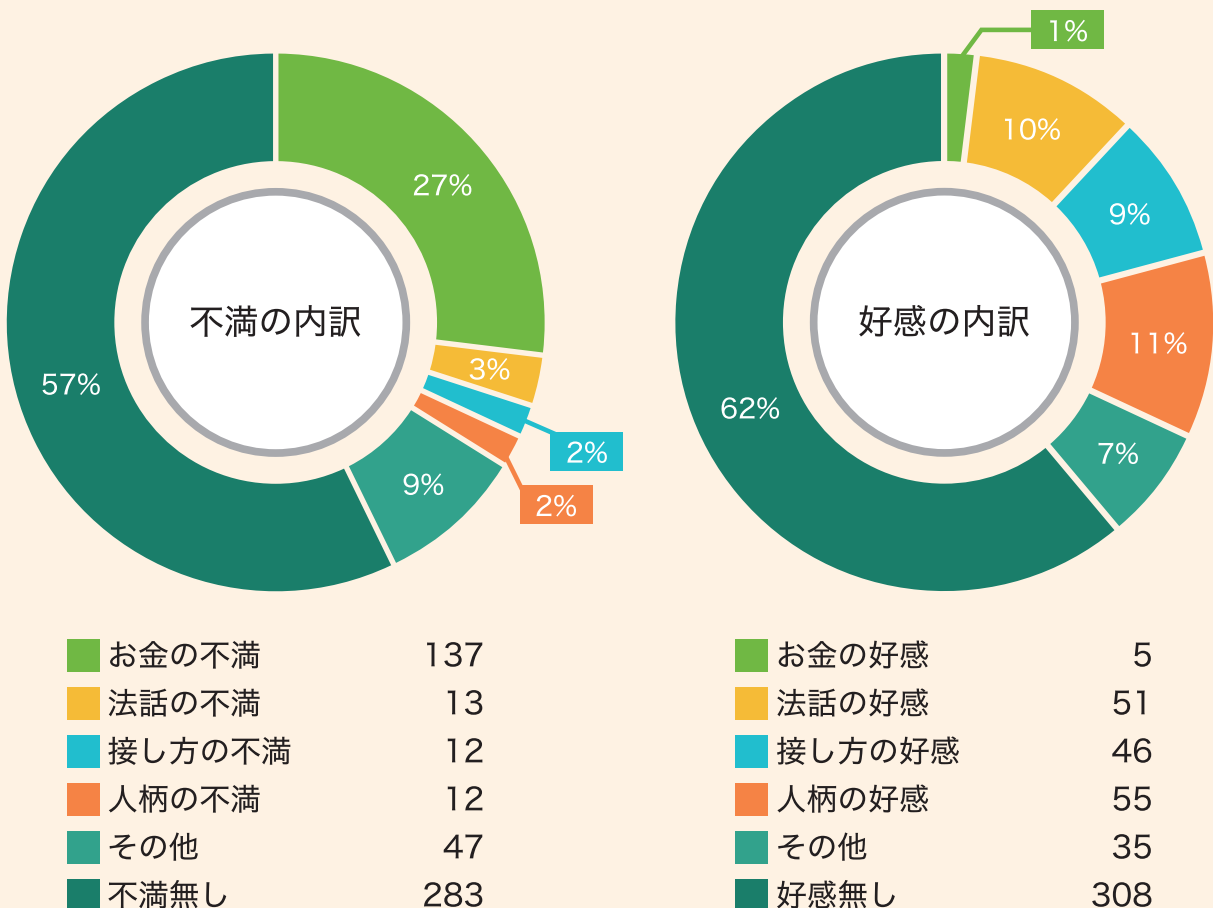
回答集計例

- ① お布施が高額だと感じる
- ② ご法話に感動した
- ③ 経済的負担を減らしてほしい



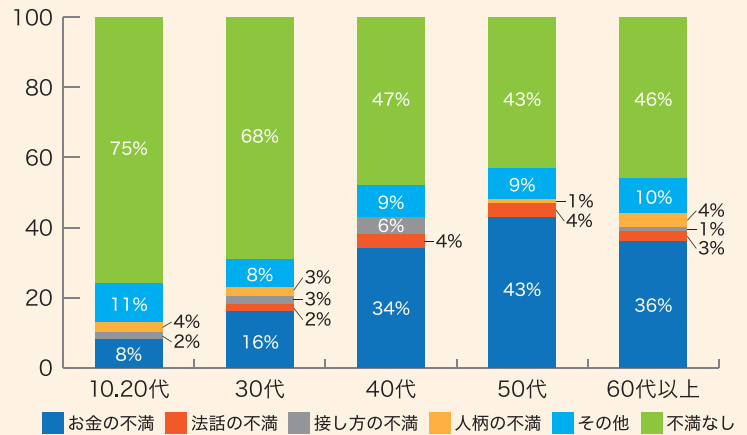
お金の不満 +1  
法話への好感 +1

## 全年代の回答を、好感不満で比較しました

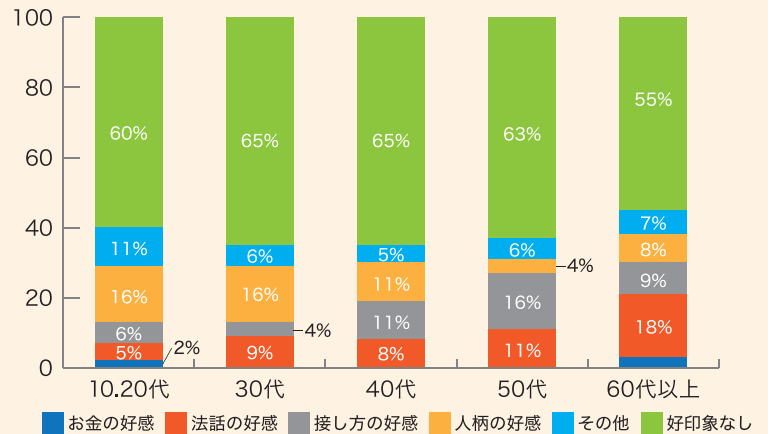


## 回答を、年代毎に比較しました

	10.20代	30代	40代	50代	60代以上
お金の不満	8	16	34	43	36
法話の不満	0	2	4	4	3
接し方の不満	2	3	6	0	1
人柄の不満	4	3	0	1	4
その他	11	8	9	9	10
不満なし	76	69	48	44	46



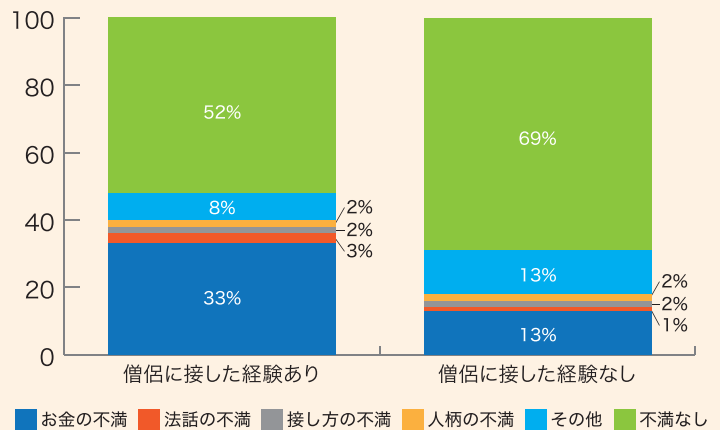
	10.20代	30代	40代	50代	60代以上
お金の好感	2	0	0	0	3
法話の好感	5	9	8	11	18
接し方の好感	6	4	11	16	9
人柄の好感	16	16	11	4	8
その他	11	6	5	6	7
好印象なし	60	65	65	63	55



## 全年代の回答を、僧侶に接した経験があるかないかで比較しました

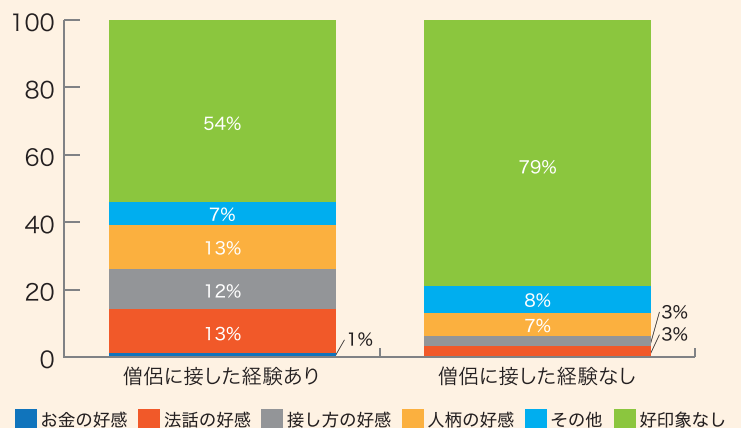
	僧侶に接した経験あり	僧侶に接した経験なし
お金の不満	119(33%)	18(13%)
法話の不満	12(3%)	1(1%)
接し方の不満	9(2%)	3(2%)
人柄の不満	9(2%)	3(2%)
その他	29(8%)	18(13%)
不満なし	185(52%)	98(69%)

各回答数合計 363 141



	僧侶に接した経験あり	僧侶に接した経験なし
お金の好感	5(1%)	0
法話の好感	47(13%)	4(3%)
接し方の好感	42(12%)	4(3%)
人柄の好感	45(13%)	10(7%)
その他	24(7%)	11(8%)
好印象なし	197(54%)	111(79%)

各回答数合計 360 140



Interview.01

大慈師

YouTube チャンネル「仏教・お寺ch大慈」を運営する仮面系お坊さん YouTuber。仏教の教えやお寺の生活、よくある誤解への回答を行う。素顔や名前に頼ることなく、一人の僧侶として世間からの疑問に答え、幅広く仏教・お寺の世界などを紹介している。



●アンケート結果を見てどのように感じましたか。

**大慈師** 私はこの数字を見て、全国のお坊さんは頑張っている・今のままで十分通用している傾向があると感じました。皆さま「自信を持ってください」「仲間を信じてください」とお伝えしたいです。

まず経済的不満が3割弱という結果をどう受け取りますか。世間の大多数の人が高額なお布施に苦しんでいるはずだというよくある言説からすれば、3割弱は意外と少ないと感じる数字ではないでしょうか。『曹洞宗檀信徒意識調査報告書2012年』ではもともと少なく、葬儀のお布施額が高すぎると回答した人は17%にとどまります。むしろ適正な金額と答えた人が26%、何が適正かわからないという回答が42%です。今回の全曹青の調査の3割弱には高額すぎる不満と不透明だという不満が混在したかもしれません。いずれにせよ「お坊さんは高いお布施を要求するくせに自分たちは贅沢をしてずらい」とい

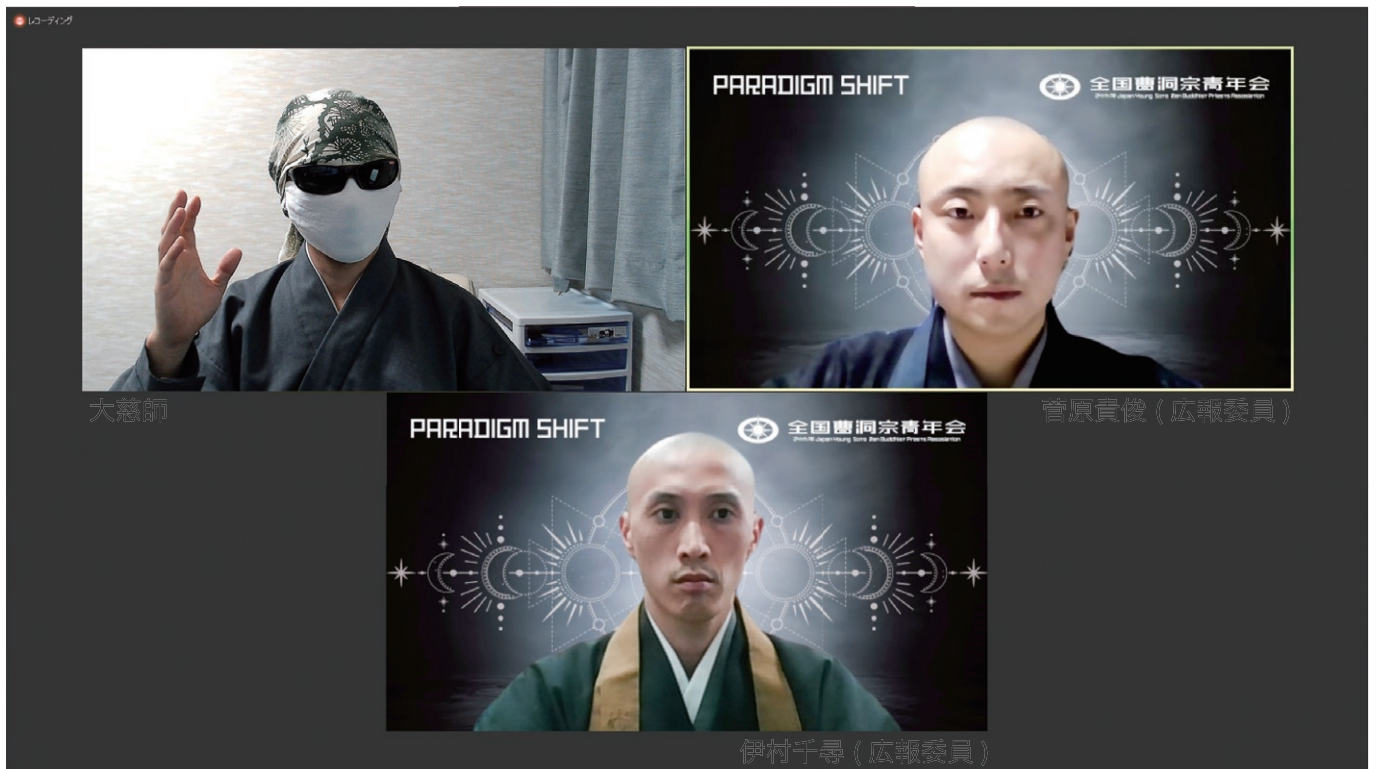
うような話もよく取り沙汰されますが、実際は大多数の人がそうは思っていない調査結果が出たと言えます。

次に注目すべき点は、お寺や僧侶に対する好感度を回答いただけたのが全体の4割という点です。これは確かに寂しいものを感じます。しかしお金の不満を除いて割合を再計算すると、不満無しが8割近くにのぼる点にも着目すべきです。あくまで全体の傾向としての話ですが、「現代のお坊さんの多くが、誠実に人々と向き合えていない」と決めつけるのは乱暴と言えそうです。

今回の結果をさらに良い方向に進めるためには、コミュニケーションの内容を再検討することが大切でしょう。例えば経済的不満で考えると、「家族葬のような小規模の葬儀にすれば安く済むはず」とよく耳にします。しかし実際は多くの参列者さまに集まってもらい、お香典をお断りしない方がお施主様の経済負担が少なくなるということもあります。私たちはお金の話をタブー視しがちですが、言葉を選びながら丁寧にお伝えすれば、誤解や何が適正かわからないモヤモヤが解け、寺檀の信頼関係に繋がります。また、親から子へ、コミュニティの先輩から後輩へとお伝えいただくよう促せるとさらに望ましいでしょう。

●これまでYouTubeなどで活動してこられて、そうした一歩踏み込んだコミュニケーションが求められる機会もありますか。

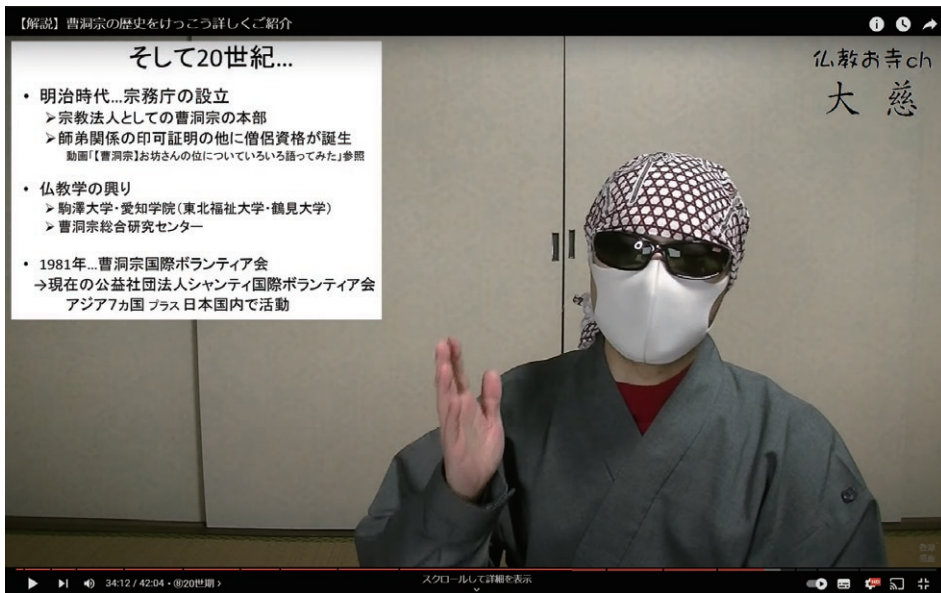
実感としてはもちろんそれだけではありません。今までお寺でやってきたことを当たり前にやり続けるというのが一番求められていて、次に普段このような行持や檀務・山務・研修等をやっていますと伝えること。そして疑問に答えることを求められていると感じます。つまり、お坊さんがお坊さんとしてその場に存在するということが第一に求められてい



大慈師

菅原貴俊 (広聴委員)

伊村千尋 (広聴委員)



YouTube で曹洞宗の歴史を紹介する大慈師

るのです。  
先ほどの『曹洞宗檀信徒意識調査報告書2012年』では、お坊さんに期待していることは何かという項目で、葬儀の執行92%、法事の執行91%、仏教的行事の継承64%が上位を占めます。実体験でも本山の托鉢中に葬祭場の脇を通った際に「お坊さんがこんなに来てくれた。ありがたい」と手を合わせられた経験がありますし、YouTube のとあるコミュニティ内の常連の方が亡くなられた際に、私がコメント欄に現れただけで喜んでくださ

従来通りの檀信徒さまとのコミュニケーションを大切にしつつ、それをより多くの人々に届けられるよう、パイプを増やしていくことが必要だと思います。従来であれば対面の会話や法話、寺報といったパイプが一般的ですが、そこに新しいパイプを増設するイメージです。  
特にインターネットは離れた地域にお住まいの方々へと繋がることに非常に長けています。時間の制限も薄くなりますので、近隣の方々ともより密接に繋がることが可能です。動画媒体か文字媒体どちらが良いかは、皆さまの得手不得手で選んでいただくのが良いと思います。  
これはもつと熱心にコミュニケーションしましょうという話ではありません。今までと違うパイプを増やしましょうという話です。すでに届いているの方々には充分届いています。届かない所にいらっしゃる方々にどう届けるかという問題だからです。  
そして僧侶によるその試みを促進するためには、今回の調査結果を受けて「自信を持つてください」「仲間を信じてください」と周知することが大切でしょう。今後「も反省すべきところは反省せねばなりません。しかし、ただ反省を促す一辺倒の人材育成でいいのでしょうか。他人の頑張りを認めることは、それ自体が社会へ寄り添う上で不可欠な姿勢ではないでしょうか。」

取材／広報委員 菅原貴俊  
伊村千尋

さった方々もいました。  
そのような経験から、やはりお坊さんはその地域そのコミュニティにお坊さんとして存在していること自体が求められていると感じます。そしてその上で、疑問を安心に転じられるコミュニケーションを求められていると感じます。  
●では我々僧侶は、今後どんな形で社会へ寄り添うべきでしょうか。



『仏教・お寺ch大慈』  
はこちらよりご覧  
いただけます。

YouTube チャンネルでは仏教のことや日頃の作務の様子まで、様々な僧侶の姿を紹介している



たてもりかんぎょう

## 館盛寛行師

神奈川県相模原市 曹洞宗 梅宗寺住職

大本山總持寺や大本山永平寺別院長谷寺専門僧堂で講師(カウンセリング担当)を務め、曹洞宗総合研究センターで委託研究員(この問題研究プロジェクト)や全曹青第18期基幹事業委員会副委員長(傾聴研修会、観世ふおん電話相談)を歴任。現在は曹洞宗総合研究センター講師、宗務所布教師、教誨師、電話相談員、少年補導員、交通指導員などで社会に接する活動を続けている。

## ●アンケート結果を見てどのように感じましたか。

## 特集 僧侶に求めるリアル

**館盛老師** おおよそは予想通りでした。お金に不満を持っている方が当然いるだろうと思いましたが、僧侶の人柄や接し方が良ければ好感を持たれる方もいるだろうと思えました。また、不満も好感もなしの数が多いと思えました。でもそれは考えてみると当然なのかもしれません。例えば私がバスの運転手にどんな印象を持ちますかと聞かれても、個人的に会話をするわけではないので、良いも悪いもなく、きちんと職務を全うしてくればそれでいいと答えると思います。僧侶とあまり接点がない人にとって

は、僧侶も同様で職務を全うしてくれば良くて、不満も好感もないという数が多くなるのは当然かなと思えました。特に葬儀や法事があってもなかなか施主や年長者の方以外と深くお話しすることは少ないでしょう。だからたとえ長年の檀家であっても、世代間で僧侶への認識にばらつきが出てくると考えます。

あと、僧侶と関わりたいと思っている方も多くいますが、僧侶が何をしてくれる人なのか伝わっていないように思います。施主の方は葬儀や法事を頼むところという認識はあって、家の代表として僧侶と関わりを持っています。しかし、施主以外の方にとっては、葬儀や法事以外にお寺や僧侶が何をしてくれるのか伝わっていないのではないのでしょうか。

●確かにアンケート結果にも「もっとお坊さんと関わりたい」「もっと深く知りたい」という意見がありました。これまで社会に深く寄り添ってこられた中で、実際にそれを感じる場面もありますか。

私自身この問題に関心をもって、電話相談員など様々な活動に携わってきました。そこで実際に感じるのには「お坊さんと話をしたい」、特に「人生相談をしたい」という人が多くなってきていることです。全曹青から始まった「観世ふおん電話相談」も、現在は多くの電話相談をいただくようになり、繋がりにくい電話になっていくほどの需要があります。こうしたことから、僧侶が話を聴く機会というのは求められていると感じます。

また、今の時代は法話や仏事の丁寧な説明が求められていると思います。一般の方々には法話等のない僧侶に対してマイナスイメージを持たれるよう、「なんであのお坊さんは法話しないの?」と質問を受けたこともあります。法式の実践はもちろん、法





話も真剣に行わないといけないと思います。

そしてもう一点、「生死の問題の専門家であること」を求められていると感じます。医師、看護師、福祉関係者、行政、弁護士、心理カウンセラーなど専門分野の方々と話す時、生死の問題に関して「私たちは答えを持ち合わせていないから、そこはお寺さんに担ってほしい」と言われることが多々あります。もっと言えば僧侶が生死の問題に対応できれば、プロとして専門分野の方々と対等につながり合い、共に社会に寄り添うことができるはず。そのため、生死の問題に関して僧侶である私たちがしっかりと対応できるように活動しなければいけないと思います。

● 私たち僧侶が積極的に外に出て活動することも大切ということでしょうか。

そのとおりです。お寺を訪ねてお話をしに来る人もいますが、地域のボランティア活動中に世間話をした流れで相談を受けるケースも多いのです。だからこそ外に出て、共に活動する中で地域の方々との関係性を築くことも大切だと感じています。寺の外では一般の方と変わらず一緒に活動するのですが、周囲の人は僧侶である私の言動を見ているので、僧侶という意識を忘れてはいけ

ません。脚下照顧の教えのとおり自分の足元をしっかり見つめ、自分ができることを一生懸命やるのが大切だと思っています。

● 普段心がけていること、我々同じ僧侶に望むことは何でしょうか。

私自身は「衆生無辺誓願度」をどうすれば実現できるか常に考えています。「仏教とは何か」と考えたとき、生老病死苦から解脱する道を説く教えというのが私の結論です。その先に「衆生無辺誓願度」があると考えていて、それに繋がることは何でもやっていこうと考えています。その一環として悩み苦しんでいる人の話を聴き、自分に何ができるのかを常に問いながら実践しています。その積み重ねが、生老病死苦から解脱する道を説くということになると考えています。

曹洞宗には約2万3千人の僧侶がいるそうです。僧侶がたった一人と関わりを持つだけで2万3千人の人たちが救われます。ですからまずは目の前の一人と向き合うことから実践していただければと思います。ただし、様々な声と向き合う我々がそれを受け止めきれず、倒れてしまつてはいけません。一人で受け止めきれない場合には、相談活動を行っている先輩方や周りの仲間を頼ってください。観世ふおん電話相談では、相談員同士でケアを行っています。

私たちは仏教とご縁があり、仏縁によって僧侶として生きています。そんな私たちが、僧侶で良かったなと思いつつながら幸せに生きているということが大切です。道を説いていく我々が幸せでなければ、一般の人たちに道を説いても説得力がないでしょう。だからお互いに助け合いながら「僧侶で幸せだった」「仏教と出会えて良かった」と思える日々を過ごせるよう、一緒に頑張っていきたいと思います。

取材／広報委員 菅原貴俊

伊村千尋





「今の世の中は宗教離れが進んでいる...」「葬式仏教葬式坊主だ...」  
 こうした意見を多くの方が耳にしたことがあると思います。では果たしてそれは本当なのか。本当に私たちの日頃の活動は社会に寄り添えないものなのか。そんな疑問が、今特集を企画するきっかけとなりました。

アンケート結果では、下記のように立場に応じた様々な意見が寄せられました。僧侶の姿勢や経済的負担に関わる不満、逆に僧侶の熱心な活動を好意的に受け止めてくださっている言葉。不満意見と好意的意見のどちらもあり、一方で僧侶に対する意見がないという回答も多くありました。

こうした世間の率直な意見を受けて、私は「我々の存在意義や役割が理解されていない、やはり人々としつかり向き合えていないのではないか」と感じました。しかしそんな思いを抱きながら大慈師と館盛師にお話を伺ったところ、「自信を持ってください」「仲間を信じましょう」「無理せず助け合いましょう」という、力強いお言葉を頂戴しました。

特に痛烈な意見は印象に残りやすく、まるでその意見が社会の総意かのような錯覚を生みます。しかしそうした意見は、私たちの僧侶としての在り方にさらなる改善の余地があるということを考えるきっかけとなります。そして同時に、今の僧侶を認めて期待を持ってくれている意見にも目を向けると、より熱心に社会に向き合うための活力をもらうことができます。特集取材を終えた今だからこそ、私も自身の成長のきっかけとして、心穏やかにこの世間の声に向き合うことができました。

今回の特集で、社会が我々に求めるものは、以前と変わらずお坊さんとしての役割を全うし続けていくことはもちろん、それだけではなくさらにその先を求められていることも事実として確認できました。自分のできる範囲のことをひとつひとつ行い、一人ではなく時には周りを頼ることも必要。その結果として、僧侶への関心も高まり、世間の求めに答えていくことができるのかもしれない。私も現代に生きる一人の僧侶として、社会の求めに応えることができよう努力を続けたいと思います。

文／広報委員 菅原貴俊

今回幅広い年代の方にアンケートを行い、  
 数多くの「リアルな声」を頂戴いたしましたので  
 ここでいくつか紹介いたします。

23歳男性

不満 「お布施が曖昧」  
 好感 「説法が為になる」  
 要望 「接しやすい対応を」



37歳女性

不満 「法要や戒名の料金が高すぎる」  
 好感 「困っている人の相談に乗ってくれる」  
 要望 「気軽に訪れられる場所にしてほしい」



36歳男性

不満 「読経が適当そうだなと感じること」  
 好感 「説法が面白いこと」  
 要望 「俗世から離れた視点による気づきのある話を聞きたい」



71歳女性

不満 「お経に心がはいていない」  
 好感 「親身に話してください」  
 要望 「心のこもったお経を唱えて欲しい」



50歳男性

不満 「曖昧な習慣があってわかりにくい」  
 好感 「心が軽くなるようなお話をされ感心した」  
 要望 「なにかと難しいお仕事だとは思いますが寄り添っていただければ幸いです」



その他の不満意見

29歳女性 「お金に汚いイメージ」  
 39歳女性 「偉そうな態度をとる」  
 48歳女性 「知識のアップデートを怠っている」  
 51歳男性 「何を話していいかわからない」  
 61歳男性 「身に染みる言葉が少ない」  
 73歳男性 「庶民の支えになっていない」



その他の好感意見

25歳女性 「法話に学びや気づきがあった」  
 34歳女性 「親身に話を聞いてくれた」  
 37歳男性 「仏事を行うことで安心感が得られる」  
 39歳女性 「説法で心が軽くなった」  
 59歳男性 「熱心に読経していただいた」  
 72歳男性 「相談に乗ってくれる、話しやすい」



その他の要望

35歳男性 「価値観の変化を受け入れてほしい」  
 37歳女性 「古き良き文化を守ってほしい」  
 40歳男性 「金額を事前提示してほしい」  
 53歳男性 「地域に根付いてほしい」  
 53歳女性 「気軽に話す機会が欲しい」  
 59歳男性 「為になる説法を聴きたい」



## 青年会情報



京都曹洞宗青年会 役員一同

### 京都曹洞宗青年会

昭和38年発足 会員数40人

会長／横井慎秀

(写真後列中央)

# ソウサイイ ネットワーク

全国の加盟曹洞宗青年会の活動情報を共有し、青年会活動のさらなる活性化を目指す本連載。今号は、京都曹洞宗青年会の活動をご紹介します。

■これまで、どんな活動を展開されてきましたか。

京都曹洞宗青年会は、元々は他県で行われていた「緑蔭禅の集い」に感銘を受け、京都でも坐禅を軸とした社会との交流を目的に創立されました。現在の活動は多岐にわたり、京都府内の各寺院での法要随喜に活かせるよう研修の場を設けることや、道元禅師示寂の地の月一清掃等も行なっています。活動の幅は広がりましたが、創立の根幹となった参禅や社会への参入を模索する理念を受け継ぎ、現在も活動を継続しています。

第1回「緑蔭禅の集い」は曹洞宗初開道場である興聖寺で開催され、やがて同じく京都の僧堂である智源寺での開催となり、興聖寺では「秋冷禅の集い」

を継続することとなりました。コロナ禍の影響から1年間は両坐禅会を開催中止し、翌年よりコロナ禍に対応した形で開催し、今年60回目を迎えました。歴史ある修行道場での参禅ということに、長年多くの反響を頂戴しています。

また当会ではさらなる社会への寄り添いを模索し、「天皇盃全国車いす駅伝競走大会」でのボランティア活動を継続しています。第1回大会の開催を受けて、京都府内の様々な青年団体が所属している「京都青少年活動推進会議（ユース21京都 前団体）」という組織に加盟し、選手の皆さんの車いす乗降の介助をはじめ、大会運営ボランティアに毎年参加しています。

さらに近年には、新たに「坐禅かふえ」という活動も加わりました。これは、京都府内の寺院や喫茶店等で道行く人と一緒に坐禅し、茶話会を楽しむというものです。お菓子は会員各自が持ち寄り、訪れた方達と和やかに過ごします。親しみやすい僧侶として社会に関わることで、京都観光の方からも大変ご好評を頂戴しています。



全国車いす駅伝 車いす運搬の様子



興聖寺 秋冷禅の様子

■どれも京都という土地を活かした活動かと思えます。やはり社会と僧侶の距離が近いからこそ生まれた活動でしょうか。

私たちは他県の場合に詳しいわけではありませんが、たしかに京都は特殊な環境にある地域と言えるかもしれません。様々な宗派の本山やたくさんのお寺があり、僧侶がとても身近に暮らしています。



坐禅かふえ 喫茶の様子

だからこそ、僧侶がそんな社会に疎いまま、世間知らずのままであることはいけません。そういった意図で参禅や「坐禅かふえ」は、僧侶の立場を以て社会と交流する実践として大切にしています。

特に車いす駅伝のボランティア活動では、多様な社会により深く参画し、社会的常識を持つ僧侶としての視点を養うことを大切にしています。乗降の介助ボランティアは、選手の方を抱えて座席まで移動します。不安なく身体を預けていただけるように事前研修を受けた上で参加します。そこに宗教者かどうかという垣根はありません。

また同様に「ユース21京都」の会議に参加する中でも、立場を超えて様々な意見に触れ、宗教者とは違う価値観や考えを学ばせていただいています。こうした場に参加する上で、参加者の方と宗教者の距離が遠いと、対等に意見し連携することは難しいかもしれません。同じ社会を生きる一員として活動に参加し、同じ立場で学ぶ機会をいただいているように感じます。

そして実際にこの活動を経て、お寺にお参りされる方に対して気後れすることがなくなりました。車椅子でお参り

された方がいて、補助が必要かどうか。必要であるならば、どのような補助を行うべきか。身体を動かして経験しているというのは、大きな価値があります。

■今後、どのような活動を計画されていますか。

直近の計画ですと、当会は今年で創立60周年を迎えます。これを記念し、比叡山延暦寺・横川の道元禅師得度霊跡並びに大講堂での報恩拝登諷経を厳修いたします。高祖様が若くして仏教を学び、日本の曹洞禅の歴史としては出発点となる比叡山。この地で法要を修行させていただけることは、大変光栄なことです。コロナ禍の状況に鑑み、当会会員のみでお勤めいたしますが、会員一同謹んで臨みたいと考えています。

また長期的な計画としては、当会では社会変化に対応した対面事業の在り方を模索し、今後も開催を継続してまいります。これまで受け継いできた諸活動は全て、社会の中に僧侶自身が身を置き、僧侶としての自分と社会の一員としての自分を両面から成長さ

せるための活動です。これはやはり実際の自分を誰かに対面させるからこそ培われるものだと思います。だからこそ、コロナ禍の状況を注視しつつも、この研鑽の機会を次世代へ継続することができるよう、活動を続けていきたいと考えています。

取材／広報委員長 菅悠生



広報委員 萩野昌吾

京都曹洞宗青年会から全曹青に出向しています。

大本山總持寺開創七百年『延年之章』 参加報告



三重県曹洞宗青年会 和太鼓集団「鼓司」による奉納演奏

令和4年9月10日、石川県輪島市の大本山總持寺祖院で「大本山總持寺開創七百年『延年之章』」に参加させていただきました。

大本山總持寺や大本山總持寺祖院は、禪の歴史や文化のさらなる魅力発信と地域交流の促進を図るため、石川県輪島市等とともに「禪と海 里づくり・交流促進プロジェクト」を発足しています。全曹青も参画し、昨年は大本山總持寺開創七百年奉讃イベントとして「ZENSUSEI ONLINE FESTA」を開催いたしました。続いて本年開催されている『延年之章』では、山門プロジェクト「ゼンのきらめき」に参画させていただきます。

「ゼンのきらめき」では、三重県曹洞宗青年会有志による和太鼓集団「鼓司」の奉納演奏が行われました。開創七百年を迎えた大本山總持寺の過去から未来を表現する光の芸術に合わせ、中秋の月夜の下に、青年僧侶が打つ迫力の太鼓演奏が響きました。公演では感染対策として、観覧人数を分散させながら3回の公演が行われました。人数制限がある中でしたが、能登半島地震から復興を果たした祖院山門に多く



の人が来場され、映し出される光と音の共演に酔いしれました。また公演に合わせて、門前もとても多くの人で賑わいました。平成19年に発災した能登半島地震で、甚大な被害を受けた祖院と輪島市が復興へと向かい、七百年の歴史とともにこれからも一緒に歩んでゆく。そんな前向きな思いが伝わってくるような賑わいでした。

公演当日の昼過ぎには、門前の広場で全曹青の頒布物を取り揃えたブースを開きました。写経用品やぬり絵、精進料理本『ここから始める 精進料理教室』等を展開しました。また開創七百年記念として、昨年制作した全曹青オリジナル和菓子「Paradigm Shift」を御征忌に合わせ奉納



し、同じく記念として制作した特別御朱印「瑞夢」は、当日頒布ブースでも取り扱いました。頒布物を実際に企画した会員もブースに立ち、来山された方に直接その使い方や良さを紹介する場面や、お話を伺う場面もありました。コロナ禍で頒布ブースを展開する機会も減っていたため、対面での交流から、人と人とのつながりの大切さを改めて実感する機会となりました。

取材／広報委員 萩野昌吾

当日の公演を全曹青公式YouTubeチャンネルでご覧いただけます。

## 令和4年度「花まつりキャンペーン」 沢山のぬり絵をお寄せいただきました

全曹青では、平成4年度より「花まつりキャンペーン」と題した花まつり普及促進事業を展開しており、現在では甘茶ティーパック・可愛らしいイラストシール・ぬり絵ハガキがセットとなった「花まつりセット」をお届けしております。

令和4年度は青年僧侶が描いたイラストに多くの方よりご興味を持っていただき、4ヵ月のお子様から95歳の方まで、非常に幅広い年齢層の方より合計396枚のぬり絵ハガキをお寄せいただきました。様々な願いを込めてお送りいただいたぬり絵ハガキは、謹んで両大本山へご奉納させていただきます。コロナ禍により奉納の機会が遅



くなりましたが、本年6月には令和2年度分と令和3年度分をご奉納させていただきました。

また、ぬり絵ハガキをいただいた方の中から抽選で記念品を贈呈しており、毎年ご好評を頂戴しております。今年度は、日常で使いやすく環境に配慮したエコパックを記念品にご用意し、当選者にお送りしました。

「花まつりセット」はお子様からご年配の方まで、仏教に親しみ、家族で共に学べる頒布物となっております。来年度の「花まつりセット」も鋭意制作中です。是非、布教化の一助としてご活用いただければ幸いです。

文／総合企画委員長 三吉泰之

## 『全曹青公式 YouTube チャンネル』に各種動画を追加

### 『修證義』 読経動画

教化委員会では、この度「読経動画」シリーズに『修證義第1章〜第5章』を追加いたしました。

動画では青年僧侶による読経を、高い画質と音質を意識して撮影しました。また、併記された經典の文字は読経の速さに合わせて色が変わっていくので、今どこを読んでいるかが一目でわかります。

各ご家庭で動画の僧侶と一緒に読経していただく、一心に読経を味わっていただくなど、多くの方に修證義に親しんでいただきたいと思えます。

文／教化委員長 菅生泰礼

### 『英語で親しむ梅花流』動画

国際委員会では、海外で梅花流を学びたいという声を受け、英語で梅花流詠讃歌に親しんでもらう動画を制作いたしました。

今回は梅花流詠讃歌を初めて知る方に向けて梅花の簡単な歴史紹介と、親しみやすい詠讃歌の奉詠を、梅花流特派師範 清水道広師に披露していただきました。

法具の澄んだ音色や美しい詠讃歌のお声など、こころ静かに梅花に親しむことができます。また、英語と日本語両方の字幕を入れることで、言葉の壁にとらわれずご覧いただけます。

文／国際委員長 高柳龍哉



修證義 第一章 総序

全曹青公式  
YouTube  
チャンネル  
はこちら



## 第30回曹洞宗北海道青年会全道大会「函館大会」

### 大同団結

令和4年6月30日、第30回曹洞宗北海道青年会全道大会「函館大会」を開催しました。前大会は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し中止となったため、2期振りの開催となりました。

今大会においてもコロナ禍での開催と予想されたため、参加者に対する感染予防対策のお願いと会場における感染対策の徹底、更に一堂に会しての懇親会を中止した上で開催いたしました。そうした限られた中での開催にも関わらず、90人を越えるご参集をいただきました。

記念講演には、テレビやラジオなどで活躍されている「TEAM NACS」のリーダー森崎博之氏をお招きし「北海道で、美しく生きる。」と題し、ご講演いただきました。森崎氏はかねてより自らを「北海道農業応援団長」と称しておられ、農業の大切さ・食育の大切さ・北海道という大地の大切さを熱く語られました。現在、我々が直面している過疎問題について何うと「今ここに暮らす我々がもつと自分の町を愛し、もつと自分の町を知り、もつと我が町の魅力に気付くこと。中からだ

けではなく、多角的な視点を持つことが大切。そこに皆さんが取り組むべきヒントがあるはず」とお答えいただきました。

コロナ禍での開催となりましたが、先が見えない状況にも関わらず、大同団結し無事開催に至れたことは、我々曹洞宗北海道青年会にとって大きな意義を持つ大会となりました。

文／大会実行委員長 星見拓禅



## 九州曹洞宗青年会 総会・研修会報告

### 指定避難所が被災。



ただきました。

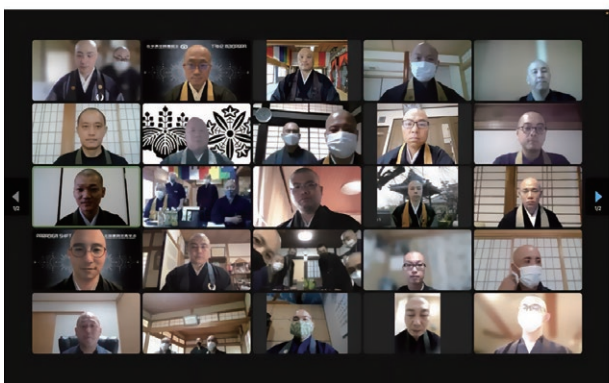
この災害はコロナ禍における激甚災害第1号となったため、ボランティアが通常の6分の1、60分の1しか集まらず、現場では大変な苦労があったそうです。お話のなかで岩崎師は「現場力が無いことを痛感した。ひたすら地元の方の気持ちに寄り添い、やれることは何でもやった」と述べられました。

100年に1度の災害が毎年のように発生している昨今。災害復興の最前線に立つておられる方々のお話を伺い、災害に対する備えへの意識を共有できました。

文／広報委員 信行一宏

令和4年6月28日、オンラインで令和4年度九州曹洞宗青年会総会と研修会が開催されました。定期総会に先立ち、九州曹洞宗青年会会長・清永貴司師は「毎年のように発生している自然災害に対して、僧侶として何が出来るかを考え、未来へ繋ぐ活動を展開していきたい」と述べられました。

研修会では『現場力』言葉なき行動』と題して、岩崎哲秀師（熊本県・神照寺）、永石龍光師（同・龍泉寺）、仲野大悟師（同・廣福寺、全曹青・災害復興支援部事務局長）がご講演されました。2年前、熊本県人吉市を中心に甚大な被害を被った豪雨災害を振り返って、当時の様子と支援の道のりを写真やスライドを交えながらお話を





災害復興支援部  
ニュースレター

熊本県球磨川流域豪雨災害  
3回忌法要



花おくりに向かう随喜衆

令和4年7月4日、熊本県球磨郡球磨村神瀬地区で、令和2年7月豪雨災害の三回忌法要が行われました。全曹青から、山田俊哉会長・岡島典文副会長・田ノ口太悟副会長をはじめ、九州内の青年会からも青年僧侶有志が参加いたしました。

法要には曹洞宗のほか、浄土真宗など、

地元の多数の宗派の僧侶が参加しており、それぞれの法式でご供養いたしました。曹洞宗の法要は、ご当地である神瀬地区の神照寺住職・岩崎哲秀師が導師を務められました。

法要に続き、参加者一同は生花を手に球磨川の支流へ向かいました。生花を川に送り出し、豪雨災害で命を落とされた方の供養、「花おくり」を行いました。流れていく花を合掌で見送る地元住民の皆様の様子が、とても印象的でした。

法要終了後には、防災炊き出し訓練を兼ねて、地区の仮設集会所でアルファ米で作ったおにぎりのまかないをいただきました。さらに現地の方やボランティアの方と茶話会を行い、被災当時の様子や現在の復興の様子を伺いました。

当災害においては、コロナ禍における発災であったため現地でのボランティア活動も難しい状況が続いていました。そんな中でも地元曹青とともに住民の方々との意見交換会や炊き出し研修に参加し、全国からお寄せいただいた扇風機を支援物資としてお届けする等、これまで

様々な支援を行ってきました。しかし今も災害の爪痕は深く残っており、被災地の皆様には今日に至るまで様々な苦勞があったことと思います。今回参加した3回忌では、それでも復興に向かって前に進もうというパワーを感じ、支援を続けてきた現地の青年僧侶も励まされる気持ち

ちでした。

本年も全国各地で様々な自然災害が頻発しております。全曹青では今後も状況を注視し、情報共有と様々な支援活動を継続してまいります。

取材／広報委員 信行一宏



3回忌法要の様子



法要後 茶話会の様子



花おくりの様子

令和4年大雨及び台風災害  
対応報告

本年発生した全国各地での大雨及び台風は、河川の氾濫や土砂災害をはじめ、各地に甚大な被害を及ぼしました。

亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、被害に遭われました皆様へ衷心よりお見舞いを申し上げます。

一日も早く皆様方の日常生活の復旧が実現されますことを、心より祈念申し上げます。

全国曹洞宗青年会



台風14号により浸水した宮崎県延岡市

8月上旬から中旬にかけて東北、北陸地方を中心に記録的大雨による災害が発生し、尊い人命が奪われ、多くの家屋が浸水するなどの甚大な被害を受けました。全曹青では発災直後より被災地評議員へ連絡し、情報収集と活動情報を共有し、行政発表の防災情報・支援情報を災害メーリングリストで発信いたしました。コロナ禍によるマンパワーの不足で、被災寺院や地域への支援活動が遅れているという報告を受けております。

9月には過去に類をみない勢力で台風14号が上陸、またその翌週には台風15号の接近により線状降水帯が発生し、全国各地で

多くの被害が確認されました。台風15号により被災した静岡県では、地域社協やIVOADより依頼を受け、全曹青と静岡県内4曹青会で協議・調整し、10月より県内在住者対象のボランティア活動を行いました。引き続き全曹青では情報の収集に努め、現地の復旧・復興を支援してまいります。

コロナ禍により様々な制限がされる中ですが、全曹青はこれからも被災地の復興とボランティア活動に励む曹青会を支援し、被災地に寄り添い活動してまいります。今後とも温かいご支援・ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

文／副会長 岡島典文

全日仏青 NEWS

JYBA  
ALL JAPAN  
YOUNG BUDDHIST  
ASSOCIATION

全日仏青 令和4年度  
第1回臨時理事会



活動方針を発表する山田全曹青会長

令和4年9月13日、熊本市で全日本仏教青年会（以下、全日仏青）の令和4年度第1回臨時理事会が開催され、全曹青からは山田会長をはじめ6人が出席いたしました。

各委員会からの報告では、全日仏青国際

委員長に就任した山田会長より今期の活動方針が発表されました。4年ぶりに開催される世界仏教徒青年連盟（WFBY）の世界大会参加について、また日本仏教を海外へと発信していくために、各加盟団体のYouTube動画や行事等をWFBYへ積極的に紹介していくことなどが発表されました。

そして、国際委員会と連携してWFBY日本センターとしての役割を担当するWFBY日本センター常設委員会の委員発表があり、全曹青からは山田会長、村山顧問、原顧問、高柳国際委員長、村上国際特別委員が務めることになりました。

また今年新設される2つ目の委員会として、会則検討委員会の設置が承認されました。全日仏青の役員が2年毎に交代していく過程で引き継ぎがうまくいかないこともあり、過去の会則、細則を集め今の時代に即した会則となるよう精査検討を行い、各加盟団体で共有、引き継ぎできるように準備をすることを目的としています。直前理事長である天台仏教青年連盟の谷晃仁師を委員長として活動していきます。

最後に、コロナウィルス蔓延以降2年間はオンラインで開催してきた全国大会も、今期は現地に参集して行われることが決定しました。宗派や地域をこえて活動する全日仏青らしい大会が計画されています。引き続き、全日仏青の活動へご理解ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

文／全曹青国際委員長・全日仏青理事長 高柳龍哉





# 国際委員会からのごあいさつ

委員長



**高柳 龍哉**

秋田県曹洞宗青年会

国際委員会は全日本仏教青年会やWFBY世界仏教徒青年連盟に参加しています。

その中で宗教的、文化的に海外の仏教徒と交流をして友好関係を広げていく事ができました。コロナ禍につき海外との往来が簡単ではない社会情勢ですが、海外交流を継続していくと共に、視野を広げ、社会の機微を捉えた委員会活動をしていきたいと思えます。ご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

副委員長



**神野 太賢**

愛知県第一曹洞宗青年会

長引くコロナ禍で、法要等もオンラインを活用することが増え、カメラに向かって話をする機会も増えました。カメラの向こう側までは見えませんが、代わりに見えてきたのは記録に残る自分の口調や話し方です。改めて自己を顧みる良い機会にしたいと思います。

委員



**井口 昭典**

曹洞宗岐阜県青年会

交わり合うことは、一人ではできません。それぞれの考え方を互いに乳水和合し、ともにそれらを輝き合わせる場がこの全曹青にあります。「International」…言語を超えての委員会活動は、様々な困難の連続です。しかし「Paradigm」…模範となる多くの方々のご縁に導かれたことへの感謝を絶やすことなく、これよりも微力ながら務めてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

委員



**久保 尚之**

新潟県曹洞宗青年会

前期の教化委員会を経て、今期は国際委員会で活動させていただいております。昨今の事情によりオンライン会議等が主流となり、対面で集まる機会が減り残念です。外国語は得意ではありませんが、残りの任期も縁を大切に精一杯精進していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員



**久保 泰道**

岡山県曹洞宗青年会

第24期より国際委員会で活動させていただいております。英語でのオンライン坐禅やYouTubeの翻訳作業など貴重な経験をさせていただいております。コロナ禍で海外での活動は難しいですが、委員の皆さんと一緒に自分にできる事を精一杯務めさせていただきたく思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員



**三浦 拓生**

岩手県曹洞宗青年会

第24期より全曹青に参加させていただいております。Zoomを使い海外の方々に英語で坐禅を教えたり、英訳して発信したりと、国際委員会に入ってから英語に携わる機会が多くなりました。グローバル化の進む現代においてこのような経験をさせていただきとてもありがたく存じます。不慣れなことも多いですが今後とも精進してまいります。

全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。  
 お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、  
 またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

◆福島県

- 2 長楽寺 様
- 7 清水寺 様
- 101 成林寺 様
- 103 小国寺 様
- 110 龍徳寺 様
- 121 長泉寺 様
- 156 大龍寺 様
- 226 常隆寺 様
- 246 長徳寺 様
- 263 慶徳寺 様
- 275 性源寺 様
- 276 龍雲寺 様
- 405 勝方寺 様
- 461 正法寺 様
- 曹洞宗福島県青年会 様

◆宮城県

- 55 實相寺 様
- 113 繁昌院 様
- 212 祥雲寺 様
- 214 実相寺 様
- 263 西林寺 様
- 275 観音寺 様
- 282 耕徳院 様
- 310 洞福寺 様
- 414 虎溪寺 様
- 465 松岩寺 様

◆岩手県

- 32 吉祥寺 様
- 52 福蔵寺 様
- 67 永昌寺 様
- 81 円城寺 様
- 245 常楽寺 様
- 264 華厳院 様

◆青森県

- 27 蘭庭院 様
- 100 澄月寺 様
- 183 大乘寺 様

◆山形県1

- 36 久昌寺 様
- 241 福昌寺 様

◆山形県2

- 322 洞松寺 様
- 337 満福寺 様
- 406 龍言寺 様

◆山形県3

- 652 青陽院 様

◆秋田県

- 10 歓喜寺 様
- 17 補陀寺 様
- 70 玉龍寺 様
- 116 龍安寺 様
- 165 能持院 様
- 174 満福寺 様
- 198 大慈寺 様
- 246 福城寺 様
- 265 倫勝寺 様
- 302 天昌寺 様
- 321 鏡得寺 様
- 323 恩徳寺 様
- 353 安養寺 様

◆北海道1

- 29 法幢寺 様
- 56 願翁寺 様
- 87 竜松寺 様
- 356 大聖寺 様

◆北海道2

- 117 中央院 様
- 299 永福寺 様
- 358 禅照寺 様
- 465 大安寺 様

インターネット受付分

◆静岡県1

- 177 興隆寺 様

◆愛知県

- 永津 貴大 様



表紙の話

今号の特集では、寺院や僧侶に向けられる現代社会の声に注目し、これからの僧侶の在り方を考えました。表紙では近未来かと錯覚するような建造物と光を見据える僧侶を強調し、社会と僧侶の未来を表現しました。

撮影地/広島県広島市 撮影者/広報委員長 菅悠生

# 賛助費・ボランティア基金浄納芳名簿

2022年7月1日～2022年9月30日取扱い分

## ◆東京都

27 臺雲寺 様  
105 鳳林寺 様  
180 正覺寺 様  
259 永林寺 様  
273 興岳寺 様  
362 岩井院 様  
精舎児童学園 様

## ◆神奈川県1

392 盛徳寺 様

## ◆神奈川県2

1 本覚寺 様  
14 傳心寺 様  
16 正観寺 様  
69 大藏寺 様  
77 龍寶寺 様  
83 正翁寺 様  
90 慈眼寺 様

## ◆埼玉県1

416 昌福寺 様

## ◆群馬県

144 雙松寺 様  
194 善宗寺 様

## ◆栃木県

36 妙見寺 様  
46 龍昌寺 様  
93 乾徳寺 様  
161 東陽院 様  
166 正慶寺 様  
167 興福寺 様

## ◆茨城県

13 龍泉院 様  
76 雲集寺 様  
160 定林寺 様  
182 龍心寺 様  
197 長龍寺 様

## ◆千葉県

2 宗胤寺 様  
7 満蔵寺 様  
22 廣壽寺 様  
25 萬福寺 様  
198 太高寺 様

## ◆静岡県1

26 宝珠院 様  
34 洞慶院 様  
50 盤龍寺 様  
109 玉泉寺 様  
388 林叟院 様  
464 正泉寺 様

## ◆静岡県2

332 龍雲寺 様

## ◆静岡県3

678 宗心寺 様  
704 善福寺 様  
1208 法雲寺 様  
1314 西光寺 様

## ◆愛知県1

7 全香寺 様  
18 大運寺 様  
101 成福寺 様  
135 光明寺 様  
144 白毫寺 様  
229 寶泉寺 様  
313 長松寺 様  
605 天徳寺 様  
625 宝積寺 様  
635 永澤寺 様  
653 正壽寺 様  
824 東昌寺 様  
1191 智光院 様

## ◆愛知県2

958 金龍寺 様

## ◆愛知県3

396 龍雲院 様  
411 福田寺 様  
557 楞嚴寺 様

## ◆岐阜県

119 佛徳寺 様  
153 宗久寺 様  
167 正宗寺 様

## ◆三重県1

28 萬壽寺 様  
144 福源寺 様  
246 寶泉院 様  
276 地藏院 様

## ◆三重県2

403 善昌寺 様

## ◆滋賀県

197 寶光寺 様

## ◆京都府

20 地藏院 様  
46 榮春寺 様  
340 寶泉寺 様  
389 萬福寺 様

## ◆大阪府

26 天徳寺 様  
31 正泉寺 様  
49 崇徳寺 様  
107 實相院 様

## ◆和歌山県

1 羅漢寺 様  
10 窓譽寺 様  
52 宗應寺 様

## ◆兵庫県1

9 三宝院 様  
287 向榮寺 様  
399 醫王寺 様

## ◆兵庫県2

149 瑞光寺 様  
228 豊楽寺 様

## ◆岡山県

3 長川寺 様

## ◆広島県

8 聖光寺 様  
26 正福寺 様  
46 雙照院 様  
89 積善寺 様  
133 少林寺 様  
162 徳雲寺 様  
179 神宮寺 様  
181 東明寺 様

## ◆山口県

25 弘濟寺 様  
172 廣福寺 様  
212 功山寺 様

## ◆鳥取県

54 東昌寺 様  
151 安国寺 様

## ◆島根県1

209 圓通寺 様  
305 海雲寺 様  
315 永明寺 様

## ◆島根県2

63 龍覚寺 様  
66 浄心寺 様  
68 全龍寺 様  
70 完全寺 様  
195 總光寺 様

## ◆徳島県

1 丈六寺 様

## ◆香川県

3 南隆寺 様

## ◆愛媛県

113 西禅寺 様  
146 興雲寺 様  
164 城慶寺 様

## ◆福岡県

5 妙徳寺 様  
25 南林寺 様  
107 天徳寺 様

## ◆大分県

16 勝光寺 様  
82 多福院 様

## ◆長崎県1

42 西方寺 様  
78 宝泉寺 様

## ◆熊本県2

76 高雲寺 様  
78 地藏院 様  
88 明徳寺 様  
122 國照寺 様

## ◆長野県1

57 長秀院 様  
71 苔翁寺 様  
147 徳應院 様  
587 観音庵 様

## ◆長野県2

507 泉龍院 様

## ◆福井県

27 龍澤寺 様  
47 瑞祥寺 様  
108 玉祥寺 様

## ◆石川県

64 永光寺 様

## ◆新潟県1

2 法音寺 様  
342 光照寺 様  
389 雲居寺 様  
393 曹源寺 様  
394 常安寺 様  
453 龍澤寺 様  
496 長樂寺 様

## ◆新潟県2

700 剛安寺 様

## ◆新潟県3

519 少林寺 様  
558 周広院 様

## ◆新潟県4

23 観音寺 様  
69 永明寺 様  
91 長福寺 様  
117 釈尊寺 様  
196 香傳寺 様  
265 東林寺 様  
817 日照寺 様

令和4年10月3日、当会第5期会長をお務めになられた静岡県浜松市・  
榮林寺東堂 櫻井孝順老師がご遷化されました。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

## 曹青からの お知らせ

### 広報誌『SOUSEI』発送方法の変更について

全曹青が年4回発行している広報誌『SOUSEI』（以下、本誌）は、昭和50年に『曹青通信』として創刊以来、今年11月発行号で第199号を数えます。現在では、全国の曹洞宗寺院、両大本山、大学を含む各宗門関係機関を中心に12,000部配布されており、全曹青と加盟曹青会の活動を広く紹介する他、檀信徒や広く一般の方々にも関心を持ってご購読いただける内容を目指し、様々な企画編集に努めています。

本誌は平成11年に第三種郵便物認可を取得し、毎号、管轄郵便局の審査と点検を受け発送してきました。以来、低廉な郵送料金で発送することができ、広報予算の削減に大きく寄与してきました。

本誌には以前より付録として賛助金振込用紙や頒布物紹介チラシ等を同封しています。今年7月、管轄郵便局の指導により、付録である頒布物紹介が広告扱いとなる為、また賛助金振込用紙が購読料以外を扱う為、規約に合わないという指導を受けました。当該付録物はいまや全曹青の活動に欠かすことのできないものと判断し、理事会審議の上、11月号より発送方法を変更することといたしました。

今後は、第三種郵便以外で最も発送単価が安く、重量の融通が効き、配送への信頼があるヤマト運輸のクロネコDM便を使用し発送します。全曹青予算内で同部数が発送可能です。

第三種郵便物認可は引き続き維持し、本誌のみの場合は第三種郵便での発送が可能です。なお『曹洞宗報』も同様に、第三種郵便物認可の上、クロネコDM便にて発送されています。全曹青の活動維持と経費節約を鑑みた判断であることに、何卒ご理解と引き続きのご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

全国曹洞宗青年会 会長 山田俊哉